

Diversity 多様性

面白い人材が集まる、育つ研究環境づくりのために（参考資料）

Science Talks テーマ発表補足資料（2014年10月25日）をもとに作成

多様性の実現と集合知の発揮のためには

研究の世界で、人々の多様性が活かされ、集合知が発揮されるようにする
 様々な立場、ライフスタイル、興味関心の人々がチームを組み、お互いの長所を活かしながら、発見や知識の蓄積に貢献できるような環境を作りたい

1. 包摂

ジェンダーやセクシュアリティの別なく適性や才能に応じて研究者になれること。

身体・精神に障がい（注）のある人々がそのせいで研究への才能を活かすことを妨げられないこと。

日本が言語の違い、国籍を意識せずに能力を発揮できる場になり、日本人も国外で自在に活躍できるようになること。

2. 多様化

従来なら「在野」とされてきた人々（研究機関等に所属のない人、ガレージ・サイエンティスト、等々）や、ある問題についての当事者による「当事者研究」などを、その立場の独自性ととも包摂できる制度づくりをすること。

企業と大学の人材が組織の垣根を越えてチームとして力を発揮できる体制がつけられること。

3. 対話

そして何よりも、集合知が発揮されるための必須条件である、対話の可能な風通しの良い研究環境がいたるところに作られること。

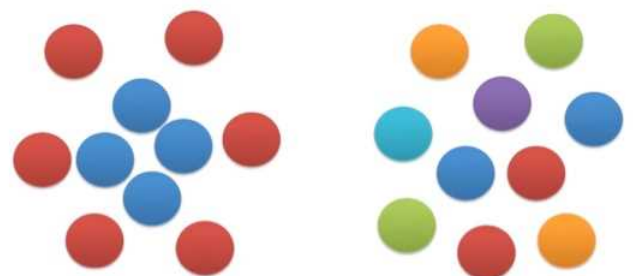
今まで、研究の世界で適切に評価されてこなかった人々やアイデアがある

そうした人々の才能やアイデアを評価し、学術として活かしていける場を、どうすればつくっていただけるだろうか？

注）「障がい」の表記については「障害」「障碍」「チャレンジド」など様々な選択肢があります。本文書では固有名詞等を除き、本文の表記は「障がい」に統一することとします。

参考：「障害」の表記に関する作業チーム
 『「障害」の表記に関する検討結果について』
 内閣府障がい者制度改革推進会議第26回、平成22年11月22日

二色から多色へ



平凡vs卓越
アカデミアの内と外

多彩で多才

Case Studies

事例集

1. 包摂

事例

障がいに関する取り組み

日本障害学会

どのような障がいを持つ人たちについても年次大会の場でバリアを感じることはないよう理事会と実行委員会が共に責任を持って運営にあたっている。たとえば壇上発表と総会には手話通訳とPC要約筆記を設置するほか、資料はすべてHPにアップして、視覚障がいなど墨字アクセスに問題がある人には事前にアップロードして、スクリーン・リーダーさえあれば読めるようにしている。肢体不自由でページをめくるのにも障がいのある人にもアクセスできる方法である。ただしそのために報告者には発表予稿のみならず、発表原稿等も1ヵ月以上前に提出することを求めている。ポスター発表にも手話通訳者が待機し、すぐに対応できるようにしている他、夜の懇親会でも手話通訳者や難聴者のための筆記通訳設備の配備などを行っている。大会会場には精神障がい者のための休息室を設ける。会場は原則、段差がなく、車椅子でアクセスできる部屋とし、トイレも車椅子対応の部屋が至近にあることを原則とするなどの配慮をしている。

手話通訳の配置がある学会：

日本手話学会（会員100人超）…工学系の報告など必要がある際にはPC要約筆記も並置

国際開発学会…一部の分科会で学会負担の手話通訳

他にも日本建築学会、表象文化論学会など

東京大学経済学部松井彰彦研究室が研究代表者となっている経済と障がいの社会科学的研究(READ)プロジェクト、およびそれを引き継ぐ形で現在も行われている社会的障害の経済理論・実証研究(REASE)、プロジェクトのセッションなど

日本財団による電話リレーサービスのモデルプロジェクト

<http://trs-nippon.jp/>

これをつかって、研究上のやり取りをすることができる（史料所蔵者との交渉など）。

日本社会事業大学「聴覚障害者大学教育支援プロジェクト」

<http://deafhohproject.com/>

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan):

各大学において聴覚障がいをもつ学生を支援する団体同士による全国的な団体。

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/xoops/>

手話で論文（スライドでも一部紹介）：

米ギャローデット大学 ASL・ろう者学学部 Deaf Studies Digital Journal

http://www.gallaudet.edu/american_sign_language_and_deaf_studies/deaf_studies_digital_journal_4th_issue.html

スウェーデンで始めて手話言語学で博士号を取得した Lars Wallin 博士論文
<http://su.avedas.com/converis/person/3064> (同博士のサイト)

関連する取り組み

ロンドン大学 (UCL) DCAL 手話の研究所
<http://www.ucl.ac.uk/dcal/bslhistory>

イギリス手話のコーパス (言語資料) ・プロジェクトも運営。手話データが公開

望ましい対策

- 学生高等教育支援のネットワークはあるが、教員ヴァージョンあるいは教員対応部門や学会や研究等におけるサポートがあればなおよい。
- 研究者を目指している障がいのある方々や研究機関に対して助言、相談、研修などを行うことが出来る障がいのある研究者ネットワークを作ることが出来るとよい。研究活動をサポートするきめ細かい仕組みはまだない。
- 差別事例が公にならないため、差別が繰り返され、障がい者が様々なポストに採用されない圧力となっていないかが懸念される。または何が差別であるかを健常者が認識できていない。たとえばある大学の選考委員会で障がいのある者の応募に対し、学内に障がいのある教員を受け入れる態勢ができるまで不採用にしてはどうかということで採用されなかった事例がある。もう1つは、ある大学が障がいのある者を職員採用する際に、選考に関わる委員から教職員は全員障がいを持たない者であるべきではというような不適切な発言が出された事例がある (→「差別事例のデータベース化」として一部スライドで使用)
- 手話通訳の配備が必要で、そのための経済的・時間的負担等が本人だけに課せられる。研究会でも行こうと思うとかなり前から、主催者側と交渉をし、出せる予算範囲を確認し、その範囲でお願いできる手段を探さないとならない。スムーズに手続きを行えるような仕組みがある事が望ましい。

事例と望ましい対策

ジェンダー、セクシュアリティに関する取り組み

(大枠としてはほぼスライドで使用した内容だが、詳細を以下に掲載)

個別事例として「ジェンダーやセクシュアリティの別なく研究者になれる」取り組みを切り出すのは困難であり、大きな効果は期待できない。「研究者育成」を考えるより前の段階においての問題の方が大きいため。そのためには次のような基本的な取り組みが大事。

- ・ 研究棟のトイレや(研究上必要ならば)ロッカールーム、更衣室といったファシリタティの面で、ジェンダーの別なく生活上の必要や便宜を確保する
- ・ 構成員 (大学教員、研究者など) に対する講習の実施
- ・ 事務書類や身分証明書等における性別記載要請の見直し
- ・ 研究環境および大学生活における人権侵害やハラスメントの防止

また、次の二つの段階を意識する必要がある。

1. 研究環境における人権侵害やハラスメントの防止
 ハラスメント相談室の対応事項でありある程度取り組みが進んでいるが、そこに至る前の教員や同僚研究者、学生間での差別言動が当該学生を研究室から遠ざけるという問題への取り組みなど。

2. いわゆる「研究者養成」以前の段階の同様の人権侵害やハラスメント
入学時や学生オリエンテーションなどにおける取り組みで、大学自体にアクセスしづらくなることのないような配慮。

取り組みとしてよいもの

ICU の CGS

<http://web.icu.ac.jp/cgs/c/08-1/>

- * ジェンダー/セクシュアリティに関する専門の相談員をおいた相談窓口を設置する
- * トランスジェンダー向けのハンドブックを作成する
 - ・ 学内ユニバーサルトイレの案内
 - ・ 学生定期 健康診断時の個別対応の要請
 - ・ 学籍簿の性別記載に関する申し立てのプロセスなど（トランスジェンダー学生など。手続きが煩雑であるため、その労力軽減）

英国および米国の大学など

学生支援の一環として、国際交流窓口や学生相談室などの一般的な窓口と並んで

* ジェンダー/セクシュアル・マイノリティの学生のための相談窓口の開設 と学生生活ハンドブックの作成/配布(これは学生全員に配布されました)→ICU のパンフレットに近い

* ジェンダー/セクシュアル・マイノリティの学生のためのライフ・ラインの設置(大学支援のもとで地域とも連携したボランティア体制。24 時間の電話相談窓口など。全学生 に配布される学生生活ハンドブックに記載)

* 性暴力被害に関する 24 時間の電話相談窓口の設置(地域のレイプ・センターや大学のクリニック等とも連携)

- 肢体障がい、視覚障がい、精神障がいなどについての事例および要望も集めるべき（→時間切れでできていない）
- 広島大学アクセシビリティセンターなど、既に取り組みの進んでいる場所の関係者への取材（→時間不足で取材できず 事例としてはスライドで言及）

不足している事例

2. 多様化

事例

- ジェンダーについて扱う予定であったが、育児・出産に関わる問題の事例は扱えていない。
- 外国籍研究者に関連する事例について集めることができていない。雇用のあり方など恐らく取り組みが必要な部分があろうと推測される。

当事者研究

- 当事者研究に関する発表のある学会

ソーシャルワーク世界会議

<http://www.swsd2014.org/ja/>

日本精神障害者リハビリテーション学会

<http://japr2014.umin.jp/>

● 当事者研究の研究会

ソーシャル・マジョリティ研究会（2014年～）

<http://kokucheese.com/event/index/159743/>

従来研究対象者であった発達障がい当事者が、定型発達者や定型社会を研究対象とすることが目的の研究会。適応努力をするか、配慮要求の明確化につなげるのかは各々の自由とされる。音声認識・構音発達・会話分析・語用論・エスノメソドロジー・感情社会学・いじめ研究などとも連携している。

Necco 当事者研究会(2011年～)

<http://necco-tk.com/>

会話分析やエスノメソドロジー、自伝的記憶研究、質問紙票調査を組み合わせ、

- ・ 「発達特性」と「語り」との関連
- ・ 「会話のルール」と、そのもとで「引き出される語り」との関連
- ・ 「発達特性・会話のルール」と、「本人の主観的な語りやすさや他メンバーへの共感」との関連などの検討

〈患者〉による記録を生かすラウンドテーブル(2014年～)

http://mednlp.jp/patients_life/announce.html

当事者研究に限らず、患者や障がい者の語りを、主に医療分野の研究や政策につなげていこうという取り組み。患者の「語り」のあり方と自殺や精神疾患への関連性についての研究を自然言語処理の専門家も交えて取り組んだりしている。当事者による仮説生成、検証を集合的に行う仕組みの開発なども。

- 研究を行う場所とプラットフォーム（学会ジャーナル、アーカイブなど）のためのリソース不足という問題が指摘されたので、スライドに反映しました。
- 「当事者研究」を教育や就労の場に活かしていくことの必要性についての指摘もスライドに反映しましたが、その背景にある思想について大意をまとめます。

ある少数者が問題化させられ、切り取られ、現場から離れた場所で専門家のカウンセリングを受けるという方法では社会生活における「困りごと」の解決には限界がある。問題を抱えた人を「発見」し、その人だけを「当事者」と捉え、その人の属性として問題を研究するのでは、その人を「排除」することにもつながってしまうからである。当事者研究的な視点にたてば、

（１）実際にその場で関わりを持っている人たち同士がみなある種の当事者性を持つこと、（２）「問題」「すれ違い」「困難」はその関わりを持つ人同士が抱えるものであることが認識され、当事者間でその構造を理解し、分かち合うことが可能になる。教育や就労の場はまさにそのような問題の現場であり、当事者研究の視点が生きる場である。

他の研究の「多様化」事例

- アリゾナ州立大学 Design Center Desert City（環境、持続可能性、住民と研究者による知の共生産）

望ましい対策

事例

不足している議論

- ニコニコ学会β（ユーザー参加型研究、人文系から自然科学、工学他）
 - DIYサイエンティスト（Independent Scholar、主にバイオ系）
 - ハッカソン（Independent Engineer、SE やエンジニアなど工学系）
- などの事例をスライドに収録しました。

これらの多様化する知の最前線とどのように既存のアカデミアが関わって行くのかについて、具体的な議論はまだこれからです。特に評価や雇用の問題について、今回はその点を深める事は出来ていませんが、これまでの議論で出たアイデアを挙げておきます（注：関係者間で合意のないもの、互いに矛盾する提案等が含まれています）。

- 「多様化」推進分野など、予算を重点配分してもらうような措置を要望する。環境分野、社会問題に関わる新しい取り組みはこうしたイニシアチブを必要とするため。
- 50%教授職の活用（オランダで既に実施例）…研究にフルタイムで時間を割けるのはこの所の大学で50%ずつ教鞭を執るなどできる。家庭生活や他の

事例収集等にご協力頂いた皆様

（アイウエオ順 所属は2014年10月当時）

綾屋紗月様（東京大学）
 岩隈美穂様（京都大学）
 木下知威様（日本社会事業大学）
 熊谷晋一郎様（東京大学）
 清水晶子様（東京大学）
 松崎丈様（宮城教育大学）
 森壮也様（日本貿易振興機構アジア経済研究所）
 山本奈々子様（SYNODOS）
 及び
 SYNODOS 編集部の皆様
 Facebook や twitter でつながっている皆様

文責：隠岐さや香

[関連 Web アドレス]

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/soki/diversity.html>

<http://www.sciencetalks.org/our-stbp/>